

資料提供

令和7年8月9日（土）

照会先：保健医療部疾病対策課

担当者：課長 増田 淳之

連絡先：029-301-3233（内線：3210）

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について（県内2例目）

8月8日、栃木県の医療機関から、同県県南健康福祉センターに重症熱性血小板減少症候群（以下 SFTS）患者の発生届がありました。当該患者は茨城県内在住の方であり、行動歴等から茨城県内でマダニに咬まれて感染したと推定されます。

なお、患者は栃木県内の医療機関に入院し、治療を受けています。

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まるため、肌の露出を避け、虫よけ剤を使用するなどして、マダニに咬まれないように注意してください。

【患者の概要】

1 年代等：70歳代 男性

2 推定感染地域：茨城県内

3 症状：発熱、下痢、食欲不振、血小板減少、白血球減少、刺し口、意識障害、肝機能障害、腎機能障害

4 経過等：

7/29（火） 発熱（38.5℃）、下痢、食欲不振出現

8/2（土） 体調悪化し、県内の医療機関に救急搬送され、入院

8/5（火） 病状が悪化し、栃木県内の医療機関に転院

8/8（金） 栃木県保健環境センターによる検査の結果、SFTS ウイルス遺伝子を検出
同医療機関から栃木県県南健康福祉センターに発生届

プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

○ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

原因：SFTS ウイルス

潜伏期間：6日～2週間

症状：主な初期症状は、発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症例では出血傾向や意識障害を伴い、死亡することがある。日本の SFTS の致死率は約 10～30%程度とされている。

治療：対症療法が主だが、国内では、抗ウイルス薬（ファビピラビル）の使用が承認されている。

感染経路：主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する。

SFTS を発症している動物との接触により感染することもある。

感染予防：マダニに咬まれないために肌の露出を避け、忌避剤（虫よけ剤）を使用する。

感染した野生動物やペット、患者の体液との接触を避ける。

感染症法：四類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出が必要）

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 マダニに咬まれないように注意しましょう

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

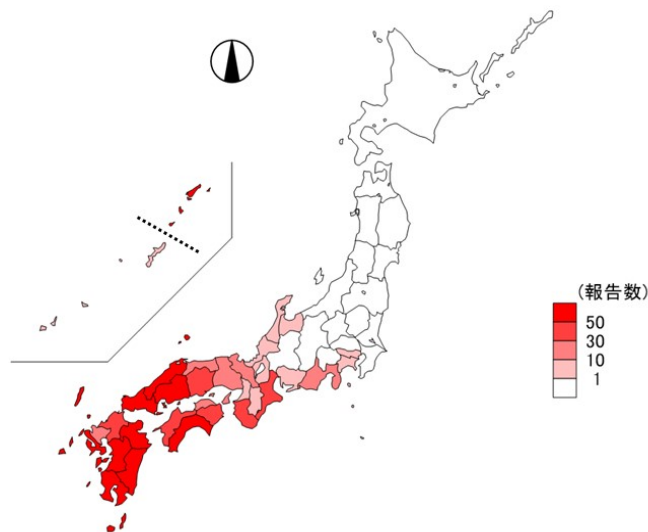
草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。服は、明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がおすすめです。

ディート（DEET）やイカリジン（ピカリジン）等を含む忌避剤（虫よけ剤）の併用も効果が期待されます。

2 マダニに咬まれた場合

マダニに咬まれていることに気が付いた場合、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関で診察を受けてください。

<参考 1> SFTS届出症例の届出地域（n=1071、2025年4月30日現在）



届出都道府県	報告数
東京都	2
神奈川県	1
富山県	1
石川県	2
福井県	3
静岡県	18
愛知県	5
三重県	30
滋賀県	1
京都府	14
大阪府	8
兵庫県	15
奈良県	1
和歌山県	39
鳥取県	10
島根県	58
岡山県	32
広島県	93
山口県	87
徳島県	42
香川県	28
愛媛県	48
高知県	82
福岡県	32
佐賀県	22
長崎県	87
熊本県	51
大分県	58
宮崎県	118
鹿児島県	82
沖縄県	1

出典 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html>

<参考 2> SFTS 患者発生状況

（単位：人）

年次	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年※
全国	78	110	118	134	120（※3）	120（※1）
茨城県	0	0	0	0	0	1（※2）

※1 国立健康危機管理研究機構の7月27日までの報告件数（速報値）

※2 今回の届出は栃木県が受理するため、茨城県には計上されない。

※3 8月7日発表では厚生労働省の感染症サーベイランスシステムの報告数「122」を記載していましたが国立健康危機管理研究機構の速報値に変更（2023年までは国立健康危機管理研究機構の年報の確定値）